

様式第4号（第11項関係）

審議会等の会議の記録

| | |
|-------------------|--|
| 審議会等の名称 | 平成30年度第1回西脇市まちづくり推進審議会 |
| 開催日時 | 平成30年6月7日（木）午後7時00分～9時00分 |
| 開催場所 | 西脇市生涯学習まちづくりセンター 会議室2 |
| 出席委員の氏名 又は人数 | 直田春夫会長、岸本信子委員、藤井琢己委員、藤原悟委員、小出茂夫委員、黒崎晃史委員、徳丸徹委員、米田育子委員、清水賢一委員、肥田雅之委員、高橋章子委員、篠田善健委員、富永信義委員、小林茂夫委員、吉川勝子委員、大前道廣委員 計16名 |
| 欠席委員の氏名 又は人数 | — |
| 出席職員の職・氏名 又は人数 | 西脇市長 片山象三、都市経営部長 筒井研策、まちづくり課長 池田正人、まちづくり課主幹 笹原祥市、まちづくり課主査 山上公平、まちづくり課主任 和田裕行、まちづくり課職員 遠藤香里 計7名 |
| 公開・非公開の別 | 公開 |
| 非公開の理由 | — |
| 傍聴人の数 | 1名 |
| 議題又は協議事項 | <ol style="list-style-type: none"> 1 委員委嘱 2 市長あいさつ 3 委員紹介（自己紹介） 4 概要説明 5 協議等 <ol style="list-style-type: none"> (1) 正副会長の選任について (2) 部会の設置について <ol style="list-style-type: none"> ア 部会での決定を審議会の決定とすることについて イ 部会員の指名 (3) 年間スケジュールについて (4) 地域自治協議会モデル事業の検証について (5) 西脇市地区まちづくり実践補助事業及び市民提案型まちづくり事業について |

| | |
|------------------|---|
| | <p>6 意見交換</p> <p>(1) 参画と協働の意見交換</p> <p>7 その他（今後の予定等）</p> <p>(1) 第2回西脇市まちづくり推進審議会</p> <p>(2) まちづくり活動審査部会</p> |
| 会議の記録（概要） | |
| 発 言 者 | 発言内容等 |
| | <p>1 委員委嘱</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 委員紹介（委員及び事務局から自己紹介）</p> <p>4 概要説明</p> <p>・資料1に基づき、西脇市まちづくり推進審議会の役割等について事務局から説明</p> |
| 事 務 局 会 長 | <p>○協議等</p> <p>(1) 正副会長の選任について</p> <p>・会長及び副会長の選任について、事務局案として会長に直田春夫委員、副会長に岸本信子委員を提示し承認された。</p> <p>《直田会長あいさつ》</p> <p>前期に引き続き会長を仰せつかった。この審議会の議論が地域づくりの成果につながるように進めていきたい。</p> <p>西脇市の美しい風景は、子どもたちが地域を意識する大きな要素になっていると思う。また、その中で暮らしている人の暮らし方というものも地域を想う気持ちを支えていると思う。地域自治協議会やまちづくり協議会、自治会やいろいろなボランティア団体など、活動があって人がつながり、暮らしが楽しいものになり、人を引き付け、これからも住んでいきたいと思うだろうし、一度は離れてもまた戻ってきたいというふうにするのではないかと思う。自然に自分から地域が好きになるという感情が醸し出されるというのが一番大事かと思う。そういうものを支える仕組や組織の在り方、まちづくりの方向性などについての議論がこの審議会ですぐ深められたらいいと思う。</p> <p>この数年間議論をしてきて、4年前では地域自治組織の設立は実現するまでの想像でしかなかったが、今ではモデル事業が実施されていて、黒田庄地区にしても比延地区にしても取組、活動を拝見すれば、ある意味では全国的に見ても先頭グループを走っているという感じがする。やはり、理想を持ち続け、適切な形が与えられればものごとは実現していくものなのだと思うし、モデル地区で暮らしている住民の方も、面白いことが起</p> |

| | |
|---|---|
| 副 会 長 | <p>こっていると感じておられると思う。そのような議論がここから少しでも出てくればいいと思う。</p> <p>《岸本副会長あいさつ》</p> <p>私が所属する津万地区のまちづくり活動について、西脇高校や西脇中学校、地域内の事業者で「コモエスタ西脇」などに、皆さんの力を貸してほしいと協力依頼に回った。私は嫌がられるかもしれないと思い、遠慮して行っただが、どの方についてもこんな機会を待っていたという反応が返ってきた。それぞれ高校生、中学生、介護職員にまちづくり活動の中で様々なことを学ばせてほしいと快く引き受けてもらった。やはり、この審議会でも一生懸命やっているところを応援する、また何かやりやすい形を提案していく、そんな審議会になればと思っている。</p> |
| 事 務 局 会 長 会 長 | <p>(2) 部会の設置について</p> <p>ア 部会での決定を審議会の決定とすることについて</p> <p>・事務局から資料1「西脇市まちづくり推進審議会条例」第8条（部会）の規定に基づき、部会の設置及び部会での議決を審議会の議決とすることについての概要を説明</p> <p>まちづくり活動審査部会を設置し、2つの補助制度の審査等に関しての協議をしていただき、また、部会での決定を当審議会の決定とさせてもらうことについてご了解いただきたい。</p> <p>◇全員賛成のため部会を設置すること、また部会での決定を審議会の決定とすることについて承認</p> <p>イ 部会員の指名</p> <p>部会員は、条例第8条第2項の規定により会長が指名することとなっている。補助金を申請する関係の方も審議会委員に含まれているため、考慮したうえで決定した。また部会長は部会員の互選により定めることとなっているため部会内で決定されるようお願いする。</p> <p>○まちづくり活動審査部会</p> <p>岸本信子委員、黒崎晃史委員、清水賢一委員、米田育子委員、肥田雅之委員の計5名で部会を構成することとする。</p> <p>部会員の皆さんには審議会以外に部会にも出ていただくことになるがよろしく願います。</p> |
| 事 務 局 | <p>(3) 年間スケジュールについて</p> <p>・事務局から資料1「平成29年度西脇市まちづくり推進審議会の予定等について」に沿って概要を説明</p> <p>・続けて事前に委員からいただいた年間スケジュールに関する質問を、「平成30年度第1回まちづくり推進審議会御質問等」</p> |

| | |
|---|---|
| <p>会 長</p> | <p>の回答 1 に沿って説明</p> <p>スケジュール表で、我々の任期は平成30年度、31年度の2年間となっている。</p> <p>また、諮問が昨年度の第1回の審議会に出されており、今年度の最終時に答申をお出しする予定のため、2年度にわたるということになる。</p> <p>今年度当審議会では、地域自治協議会モデル事業が実施から1年が経ち、より効果的な仕組について議論することとなる。今年度第2回の会議が9月、第3回の会議が11月の予定だが、一括交付金等の詳しい議論をし、第3回が終わった時点で答申の形ができるというふうに進めていきたい。</p> <p>また、今年度も比延地区、黒田庄地区では多様な事業を進められる。また後ほどお話を伺いたい。</p> |
| <p>会 長</p> <p>事 務 局</p> <p>会 長</p> <p>委 員</p> | <p>(4) 地域自治協議会モデル事業の検証について</p> <p>まずは比延地区と黒田庄地区の2地区の地域自治協議会モデル事業について、決算状況も含めて説明をいただきたいと思う。また事前に委員から質問をいただいている。質問により説明の論点が非常に明確になるため、今後もしろいろと質問を出していただきたい。ではまず事務局から説明をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から資料3「平成29年度地域自治協議会モデル事業一括交付金実績（比延地区、黒田庄地区）」に沿って概要を説明 ・続けて事前に委員からいただいた地域自治協議会の検証についての質問の回答を「平成30年度第1回まちづくり推進審議会御質問等」の回答欄及び当日配布資料（別紙1）に沿って説明 <p>お手元の資料3と当日配布の資料によって説明をいただいたが、2つの地域は非常にたくさんの事業を実施されている。また、今年度はそれらの事業をベースに、発展させるということにされている。</p> <p>比延地区については国からの交付金があったので、まずはそれを事業の財源に充当しておられる。地域自治協議会モデル事業一括交付金では、例えば組織機能強化事業や地域自治協議会設立記念フォーラム実施事業の経費への充当額が0円となっているのは、対象経費として使えるものに国の交付金を優先して充当するということだと思う。昨年度はそのようにして事業を進められたが、今年度は市の交付する一括交付金を中心に事業を実施されるということになる。</p> <p>もう少し現場のお声をお聞きできたらと思うが事業のポイントや補足などがあればお願いします。</p> <p>今年度も事業の大枠や実施形態はほぼ変わらない。</p> |

昨今、他の地域でも痛ましい事件、事故が起こっており、最近でも新潟では小学生が近所の人に連れ去られて犠牲になるという事件があった。私たちが幼少の頃は防犯カメラなどなく、地域の人が皆で見守り、怪しいようなことがあると、すぐに声掛けをしていた。現代ではある程度機械に頼らないといけないような、少し寂しい時代だと思う。そんな中で、防犯カメラは昨年度に引き続いて地域で2台設置しようと考えている。地区内の全町に、4年から5年を目標に設置していきたいと思う。

また、地域の子どもたちが自分たちの地域のいいところや、人権分野などで自分たちが普段思っているようなことの標語を作ってくれており、それを比延地区自治協議会でポスターにし、企業や地域の公民館などに配布しようと考えている。

また、地域のよいところの写真を広く募集してカレンダーにし、比延地区にはこんないいところがあると、もう一度自分たちで見つめ直し、また地区外にも発信していったらと考えている。比延地区から都市部へ出ておられる方は、昔はこんなところだったと思いだし、懐かしむカレンダーでもあるのではないかと思う。

比延地区自治協議会に参画をしている地域のまちづくり団体「ええまち比也野里」では移動販売車の運行を行っている。これまでは週に一度のペースで地域を回っていたが、今年度は週に二度回ることになった。それだけ協力をしてくれる人が集まったということで、地域としては頑張れている。

また、区長を務められた方が退任後にええまち比也野里のメンバーに入り精力的に活動をされている方もおられるので、私が希望していることが皆さんに少しずつ伝わっているのかと思う。引き続き地域で助け合いを進めながら、自分たちのことは自分たちでやっていけるまちづくりを目指していきたい。

私が所属する黒田庄地区では、本日の会議資料3にあるように、まちづくり事業としてこれまでから継続してやってきた事業や、新しく取り組んでいく事業を多く実施してきた。

黒田庄まちづくり協議会は、地区内14集落の区長で構成する区長会と連携をしており、協議会の副会長には区長会の役員に就いていただいている。まちづくりを円滑に進めていくには住民の代表である区長との連携なくしては進み難いし、住民の皆さんを巻き込んだ事業としていくためには、進め方としてふさわしいとも思っている。

平成30年度の事業については、黒田庄まちづくり協議会では4つの部会を作っているが、各部会で積極的に議論をしていた

だくことにしている。

事業実施に向けての指針、方針については総会で全体的に確認を行ったうえで、これまでの事業の継続はもちろんであるが、例えば秋谷公園遊歩道整備事業では親しみやすい公園にしていくために案内標識を作るなどの作業を予定しているが、これを最終目標にするのではなく、秋谷公園の活用方策を部会で検討していただこうと考えている。

また、先ほど比延地区からのご説明でも触れられたが、黒田庄地区にも小学校、中学校が合わせて3校あり、子どもたちの安全の確保ということが最優先の課題としてあがっている。子どもの見守り活動など防犯体制の確立とまではいかずとも、どのように進めていこうかという議論を部会の中でも進めてもらおうと考えている。

情報の発信では、“黒田庄地区とはどういうところか”ということで、地区内には白山、妙見山という山があり、西脇市のトレッキングマップにも紹介されているが、その辺も含めた山登りのマップ作りなどを進めたいと考えている。

黒田庄地区には新しく入ってこられた人もいるし、古くから住んでいる人もいるので、皆で黒田庄地区をもっと知ろうというところからも活動を進めていきたいと思っている。

また、昨年度は14集落のうち3つの集落で住民カフェができ、健康増進講座など、集落ごとにニーズに合わせて様々な活動を進めている。14集落それぞれに住民が身近なところで顔を合わせ楽しむ場所ができていけばと考えている。黒田庄地区にはコミュニティセンター黒田庄地区会館があり、そこでコミュニティカフェをしてはどうかという案もあったが、そこまで行くのにどうするかということもあり、各集落で作っていくことをお願いしていきたいと考えている。このようなことはお願いをしてすぐにできるというものではないが、活動しようという人材を見つけていくことも大きな目的だと考えている。

2地区とも堅実に事業を進められている。これまでの活動を踏まえて拡大していくものもあれば、地道に継続していくものもある。地域自治協議会としての事業はまだ2年目であるので、勢いでどんどん進めていくというわけにはいかないこともあり、確実に事業を進めてもらえればと思う。

それぞれの地区で「ええまち比也野里だより」や「黒田庄つうしん」という広報紙を毎月発行されており、本当に重要なことだと思う。住民の方が、協議会が何を進めているのか、また地域でどんな行事や活動があるのかというのが一目瞭然とな

り、それを見て自分が行けるところに参加しようだとか、お手伝いをしようといった参加の仕方も可能になってくる。広報紙を発行するというのは結構労力がかかるもので、編集も大変で、先進的な地域でも年に4回、多くて隔月に出ているくらいかと思うので、毎月広報紙を出しているというところはそれほど多くはないと思う。

概ね交付金の使途に関することは、比延地区は国の交付金を活用され、市の一括交付金が資料3に記載のような執行となり、お金の動きに関してはご理解いただけたかと思う。

委託料についてはイベントの際のテント設営や、音響、あるいはファシリテーターを頼んだりというところだ。

事務局に関してはそれぞれ時給が850円で、これは兵庫県の最低賃金を少し上回るころだが、きちんと賃金を支払い、常駐の職員がいるということはよいスタイルかと思う。組織を持続させていくためには事務局は必要で、会長などが事務まで全て手掛けて進めていく方法では回っていかない。事務局が資料づくりや調査、行政とのやり取りなどを担い、役員は大きな視点での方向性や人材育成などのことを議論していけば、長続きさせることもできるのではないかと思う。その経費も確保されているというところは西脇市の素晴らしいところだ。

地域自治協議会と地縁の自治会、町内会の関係というのは、先ほど説明もあったが、それぞれの良さがあるので役割分担をし、自治会、町内会はより近隣の集落単位で進める事業などをよりきめ細かく実施していくところが持ち味と言えらると思う。例えば学校の登下校の経路は集落をまたがっていくが、自治会同士でリレーしながら次の自治会へというようなことは現実的に難しい。全体については地域自治協議会が把握し、細部については経路の中でうまく各自治会が役割分担をしながら適切な見守りの体制を構築していくというのが良いかと思う。

また、福祉送迎車の運行などの事業は自治会単位で実施するのは規模的にもなかなか難しいため地域自治協議会で実施し、自治会は自治会で近隣住民での支え合い、助け合いや環境保全など細かい単位でする方がやりやすいということなど、役割分担する方がうまくできるのではないかと思う。地域自治協議会の活動は自治会なくしてはあり得ないというご意見があったがその通りだ。全国どこでも、自治会や区など近隣コミュニティと地域自治協議会をバラバラにしているところはやはりどちらについても活動がうまくいかないし、うまく連携がとれているところはすごくいい活動につながっている。

委員

いずれにしてもお金の流れも含めて、行政から交付金が支払われているので、きちんと会計も明確にさせていただいているということだ。詳しい経理状況は実績報告として市に提出されているが、細かいのでこの場には出されない。ただ、情報公開を求められれば見ていただけると思う。

地域自治協議会モデル事業の検証ということで黒田庄地区の活動を見させてもらい、比延地区でもそうなればいいなという私の願いになるが、福祉送迎車の運行事業は過疎化する地域にとってとても必要な事業だと感じた。「つくしバス」の利用ができない高齢者や障害者などの生活支援や積極的な社会参加につなげ、応援してくださっているということで、非常に素晴らしい取組だと思う。比延地区でも「おりひめバス」が運行されているが、「おりひめバス」を利用しにくい高齢者や障害者などの方のために福祉送迎事業の実施について優先して考えていけたらと希望している。

委員

委員がおっしゃることはもっともなことだと私も思う。私たちも実は国の過疎集落等支援事業を受ける中で、初めに移動販売車の購入をさせていただいたが、その時にも、いわゆる公共交通について、自分たちで運行するということも含めて検討をした。ただ、その時は国の規制などで、自分たちで運転をして送迎事業を行う際のハードルが高く、そのために移動販売の方に転じたという経緯がある。それから3年たっているが、その間、少しハードルは下がってきていると聞いている。比延地区の中でも今委員がおっしゃったような質問が出ている。集落によってはバスが通っていないところもあるし、特に高齢者の方などは地域内にお店がなく、遠くに買いに出かけなければならない状況もある。そのような状況の中、また国などから補助金をいただける機会があれば地域内の公共交通の整備に注力しようという思いもあったが、なかなかそこまで踏み込めなかった。

私は昨年度、区長会の関係で公共交通会議にも何度か出席をさせてもらったが、行政でデマンド方式の公共交通の整備を考えているという話があり、比延地区でも黒田庄地区のような福祉送迎車の運行をすることや、自分たちで送迎事業を実施すること、また市のデマンド方式の公共交通とがうまくかみ合い、将来的に実を結ぶような形になるように取り組んでいくのがこれからの方向性かと考えている。

これから比延地区が目指していく方向は、「おりひめバス」が走ってはいるものの、そこまで行けないという方についてど

| | |
|------------------------------------|---|
| <p>会 長</p> | <p>う対応していくのかということも踏まえるなかで、自分たちが2種の運転免許を取得してタクシーのようなことをしていくのが良いか、また行政が提案されているデマンド方式で、いわゆるプロの方をお願いして続けていくのが持続可能な取組になるのかなどのことについて、時間をかけて考えていく必要があるかと今のところは思っている。</p> <p>地域でコミュニティバスを運行するという取組は全国で行われているし、過疎地有償運送なども研修等を受ければ条件次第でできるよう制度化されている。福祉目的でリフト付きの車となると車の手配などもあるし、なかなか実際の運用は難しいこともあるかと思う。ただ、最近特に高齢者の車の事故なども数多く報道されているし、歳をとってくると自分で運転をするのは少し心配だと思われることがあると思う。そういう意味では移動の自由を確保するという手段は、地域だけではもちろん解決する問題ではなくて、全市的に、あるいは国レベルできちんと取り組まなくてはいけない課題だと思う。そういう意味ではいろいろな面で発言をしていただき世論を作りながら行政とも一緒に議論して、前向きな方向で解決できる方策を考えていくことが重要だ。</p> |
| <p>事務局 会 長 委 員 事務局</p> | <p>(4) 西脇市地区まちづくり実践補助事業及び市民提案型まちづくり事業について</p> <p>・事務局から資料4、5を参考にしながら、西脇市地区まちづくり実践補助事業及び西脇市市民提案型まちづくり事業の概要について説明</p> <p>地区まちづくり実践補助事業の方は、すべての地区で地域自治協議会ができれば一括交付金に移行し整理される。一括交付金の方が地域の自由度も高まる可能性はあると思う。ただ、補助金の申請で公開の審査があるというのは透明性が高まるので、現在の仕組はまた意味があると思う。きちんと企画を提案して、審査を受けて補助金につなげるということで分かりやすい仕組になっている。市民提案型の方は先進地の40万人規模の都市でも予算総額が西脇市の同額以下くらいのところもあるので西脇市の予算はすごく手厚い。ぜひ多くの団体に有効に活用いただきたい。</p> <p>地区まちづくり実践補助事業の方だが、前期と後期とに分けて申請をされている地区があるが、一括で通期の申請をすることと決めてしまうことは都合が悪いのか。</p> <p>先日の活動報告会でも審査員の方からご質問があったが、市内8地区のうち1地区において事情により前期と後期に分けて</p> |

| | |
|----|---|
| | <p>の補助金申請をされている。他の地区において過去に前期、後期に分けて申請をされていた地区についても現在では通年の計画で進めていただいている。審査部会や本日のご意見などを踏まえ、改めて年間の計画で申請を行っていただけないかというお話をさせてもらう。</p> |
| 委員 | <p>○意見交換</p> <p>(1) 参画と協働に関する意見交換について</p> <p>私が所属している西脇青年会議所からお知らせをさせていただく。6月13日に「地域の未来に危機感を」というテーマで講演会を開催する。少子高齢化や人口減少などが社会問題として進んでいるが、現状など本当に知っておくべきことが多くある。講師にジャーナリストの河合雅司氏を迎えてご講演をいただく。まちづくり推進審議会で議論をしている内容にも通じ、今後の西脇市のまちづくりにとって貴重な機会になると思うので、ぜひお越しいただければと思う。当日は人口減少によりこれから起こることを生々しくご講演いただけたらと思う。ぜひ参加していただいて今後の皆さんの活動にも活かしていただきたい。</p> |
| 会長 | <p>人口減少の問題はすごく大事なことで、国立社会保障・人口問題研究所から新しい市町村別の推計人口が3月に出された。概ね大都市以外は5年前に出された同じ予測よりも人口減少が進む予測が出されている。30年後には人口が3分の1になるというようところが続々と出ている。西脇市はそこまでではないにしても、これからどうなるかということだ。人口減少を食い止めるのは難しいが、産業がきちんとあるというのは大事なことだ。それともう一つは地域自治協議会を含めて地域のコミュニティがしっかりしていて、安心して暮らせるということが大事かと思う。西脇市に住みながら都市圏へ働きに出て、地域の役員も務めるという方もこれから増えると思う。そういったところが人口減少に対する歯止めになるのではないだろうか。</p> |
| 委員 | <p>津万地区のあじさい園で6月17日にあじさいまつりを実施する。TUMAこいカフェもあじさいの期間中は午後3時まで営業をしているのでぜひ皆さんお越しいただければと思う。草引きなどこれまで3回行ったが、高校生も参加をしてくれた。皆で頑張っているのぜひ見に来てほしい。</p> |
| 委員 | <p>私は西脇地区に住んでおり、地区のまちづくり活動にも参加させてもらったこともあるが、この審議会に関連するまちづくり活動についての補助金は金額も大きいし、会議資料の</p> |

委 員

質問や回答を見ても難しいことが書いてあり、まだ全体の様子が掴みきれてはいないが、自分なりに参加をさせていただきたいと思っている。

先ほど事務局からも説明があった地域自治協議会についてだが、芳田地区のまちづくり計画を3年前に再編した時に、計画書の“地域のマネジメント”のなかに地域自治協議会の組織図を入れている。芳田地区としてこの地域自治協議会についてよく分かっていないところもあるものの、最終的に組織図を挿入したということもあるのだが、行政としても地域自治協議会の制度を進めていきたいとまちかどミーティングの際に説明をされていたので、それを踏まえたうえで、現在では言葉として地域自治協議会というものが私たちの議論のなかでも出てくるようになってきている。ただやはり、区長会では行政からの提案であるため考えていかなければという印象のようだが、実際にまちづくりをやっている私たちにしてみれば、リーダーシップを本当に誰がとっていかなければならないのかということが今疑問に思うところだ。これまでまちづくりに携わり、活動をしてこられた先輩方との関係もあるが、やはり区長会との関係で、地域のことをどちらが本当に主導していかなければならないのかというところで曖昧なところがある。今日皆さんのお話を聞き、やはりそこの連携は非常に大切だということを感じた。強力なリーダーシップを持ち合わせた方というのは地域の中で必要だということも分かった。ただ、私がそれになれるかというところではなれないだろうと思う。やはり色々と過去の経験をお持ちの方に頑張ってもらい、その方を私たちがサポートできる形がいいのかと思う。ただ、地域自治協議会の目的については、私ははっきりとはわかっておらず、なぜこの形が必要なのかということが見えていない。今までのまちづくり活動と何が違うのかという疑問がある。私が理解できたのは補助金と交付金の違いというところだ。要するに補助金であれば紐付きの形になるが、交付金であれば受けた側の裁量のなかである程度自由に使うことができるということだ。ただ、同じような事業を進めていく中で、そこの差は何なのかと考えたときに、大きな事業を進めていく体力を持っていない組織にとってはあまりうれしくないことでもある。そのため、本当にどちらの方がいいのかというところが見えていない。そういう意味で今日皆さんのご意見をお聞きする中で、地域自治協議会設立へ導いていくためのモチベーションが上がらないとい

| | |
|-------------|---|
| <p>委員</p> | <p>うか、まだ確固たるものが私の中ではできていない。まちづくりが必要なことはほとんどの方が理解はできているし、やっぴいかなければということはあると思うが、方向性というものに私の中では疑問に思うところがある。次の審議会までに私の中でも自問自答していきたいと思うし、また皆様方から色んなアドバイスをいただけるような形ができたらと思っている。</p> <p>この審議会に公募委員として応募したが、実はその後、別で大きな役割を引き受けることになり、そちらに私の1年の大きなウェイトがかかってしまっている。そのためこの審議会に出られない場合もあるかと思う。皆さんにはご迷惑をおかけいたしますがご理解いただきたい。</p> <p>“人つながり未来へつなげる比也野里づくり”という比延地区のパンフレットをいただいたが、拝見させていただくとええまち比也野里を中心に比延地区のまちづくり計画やその活動は素晴らしいなと感動を覚えた。</p> <p>前に西脇高校生による「こんなの駅じゃない」という話が出た時に、生徒たちが思っているのは西脇市駅だけだった。そこではたと思ったのは、私自身が西脇市内7つの駅に行ったことがあるかと考え、一つ一つ駅を見て回った。西脇市の一番北に位置する船町口駅は素晴らしい駅だ。黒田庄駅もずいぶん前からいい駅になっている。絵などの展示をされているのを拝見した。素晴らしいまちづくりをそれぞれの地域でされている情報を得ると、また知り合いにも紹介していけると思う。参画と協働のまちづくりにやはり生涯忘れずに参加できるところは参加していきたいと思っている。</p> |
| | <p>○その他</p> <p>今後の予定について</p> <p>(1) 第2回審議会の日程について</p> <p>(2) まちづくり活動審査部会について</p> <p>① 西脇市地区まちづくり実践補助事業の審査</p> <p>② 西脇市市民提案型まちづくり事業の審査</p> |
| <p>問合せ先</p> | <p>都市経営部まちづくり課</p> |